

(7) 遂行上の問題点、取組課題（箇条書きで簡潔に記載）

制度改正が、頻繁に行われるため、システムの更新と確認に多くの時間と労力を要する。

(8) 改善実績（過去3年間の実績）

(9) 業務の評価（自己診断）

評価基準	評価の視点	五段階評価 (5～1点)
①目的の達成状況	業務目的に対して、どの程度の成果が得られているか。	3 点
②コストパフォーマンス	成果を上げるために投入してきた人的資源、財源は、適切であったか。	3 点
③業務方法の最適採用	業務の円滑で効率的な実施に採用した方法・手法は業務の目的、取り巻く状況に対応して適切であったか。	3 点
④住民の満足・信頼獲得	受益する住民の満足、行政に対する信頼は高められたか。	3 点
⑤総合計画との整合	総合計画（基本計画）の方針に対応しているか。	3 点
⑥他都市との比較	近隣の都市、類似団体に比べて業務の進み具合はどうか。	3 点
		平均 3.0点

(10) 総合評価（課の見解）

①今後の方向 (該当番号に○印)	<ul style="list-style-type: none">1. 前年度と同じく、そのまま継続する。2. 見直して継続（業務の拡大）3. 見直して継続（業務の縮小）4. 見直して継続（方法の改善）5. 見直して継続（他業務と統合）6. 廃止する。7. 休止する。
②評価理由	児童手当法に基づくものであるため。

(11) 今後の目標・改善方針（具体的かつ簡潔に記載。課の見解を記入すること）

受給要件者の適正支給に努める。